

「初期集中支援チーム」で
認知症対策を加速

Q 急激な高齢化の進展による認知症の増加をどう捉えているか。

A 市では、平成37年度の人口を6万9,507人、高齢化率は38%と推計しています。住み慣れた地域で自分らしく暮らすために、認知症に関する知識の普及や情報を提供するとともに、関係機関と連携した相談体制の整備等、認知症支援対策の充実に取り組んでいきたいと考えています。

Q 「認知症初期集中支援チーム」の創設状況はどうか。

A 平成29年度中に設置予定です。

Q 認知症の人々が集い、思いを率直に語り合う「本人ミーティング」の開催が必要だと考えるが、見解はどうか。

A 現在、本人ミーティングは開催されていませんが、認知症カフェへの参加を勧め、話し合える場となるよう支援していきます。



たしろ かずお
田代 一男 議員

Q AED(自動体外式除細動器)の使用率が5%にとどまっていることをどう捉えているか。

A 公共施設や民間施設等、多くの場所に設置されてきていますが、現場付近に未設置だったという要因や使用に関する知識不足から使用をためらってしまうという



気軽に立ち寄れる認知症カフェ「くさかべカフェ」(くさかべホーム)

人が非常に多いという要因が考えられます。

Q AEDの使用法の周知はどうか。

A 佐原消防署および小見川消防署を会場に毎月第2日曜日に普通救命講習を行っており、年間1,000人を超える受講者がいます。また、小・中学校や事業所等での一般講習でも、年間1,200人が使用方法を含む救急講習を受けています。

Q AEDの設置個所をスマートフォンで検索できないか。

A 市ホームページから検索すると、設置場所が地図上に示されます。

Q 平成28年度、学校給食を無償化する自治体が61市町村に達している。学校給食の無償化の動きが広がっていることをどう捉えているか。

A 学校給食法および食育基本法の趣旨を踏まえて、食育への取り組み、その役割は重要であると考えています。また、少子化対策や子育て支援を推進する方策の一つと認識しています。

Q 経済的に困窮する家庭のために、学校給食を無償化できないか。

A 国の動向を注視するとともに、現在の就学援助制度の周知徹底に努めます。

城山公園・黒部川・
野田地区周辺の整備は

Q 城山公園は、県内有数の桜の名所であるが、噴水広場前の敷設タイルが破損している。桜の時期までに修繕できないか。

A 原因は、樹木の生長に伴う根上りです。凸凹を解消するには、大規模な工事となるため、現在、カラーコーンを設置し、利用者等への安全対策と注意喚起を行っています。



樹木の生長に伴う根上りで破損した小見川城山公園敷設タイル

状況に応じて、計画的な修繕・管理を行っていきます。

Q 小見川第2浄水場下の老朽化した桜とその木についてはスズメバチの巣の除去は。

A 現在のスズメバチの巣は原型をとどめず、スズメバチも確認できないこと、また、桜の木も枯れていないため、通常の公園管理計画の中で、必要に応じて対策を講じていきます。

Q 忠霊塔周辺の繁茂した木々の伐採は。

A 従来から地元遺族会が自主的に管理していると認識しています。遺族会担当課と協議し、対応を検討していきます。

Q 黒部川は、城山公園とともに、小見川地区のシンボルであり、市民の憩いの場である。しかし、近年、JR鉄橋から上流の桜の老朽化や雑草の繁茂で、周辺環境が悪化している。保全対策は。

A 黒部川は県香取土木事務所の管理であるため、災害時の管理用通路の確保、堤防異常等の早期発見のために除草していただいています。この辺りは、散歩などのコースとして多くの市民に親しまれていることから、関係機関、団体と連携を図りながら、適正な維持管理に努めます。

Q 野田松林寺前およびさくら館前と八日市場地先市道の排水対策は。

A 比較的平坦な市街地であるため、合併前からたびたび冠水被害がありました。したが、排水機場等の整備により、大雨時でも黒部川、小堀川へ円滑に内水の排除が行えるようになりました。しかし、近年のゲリラ豪雨により被害が出ている現状を踏まえ、被害の軽減を図るために、冠水対策に取り組んでいます。

Q 香取神宮・津宮街道(又見地区)は、式年神幸祭および小江戸マラソンの経路である。破損しているガードレールの修繕は。

A 歩行者の安全確保という観点からも、要望があります。地元自治会長と相談の上、検討していきます。